

「高連協年頭学習集会 賀詞交換会」

2013年1月9日（水） 15:00～17:30

都内・内幸町プレスセンター日本記者クラブ宴会場

樋口恵子代表 あいさつ

皆さま明けまして、おめでとうございます。

昨年から今年にかけて、たいへんな変化がございまして、これをどう受け止めるか。

1月7日の「時事通信の新年会」に私も行ってまいりましたけれど、安倍総理が自信満々だったのに対して、もっとがんばってほしい海江田さんの話に元気がなくて、まあそんなものなのかな、と。皆さんのなかにも、わが世がきたと思う方、困っちゃったなと思う方、どちらでもない方といろいろあると思いますけれど。

私が申し上げたいのは、誰が政権をとろうと、世界まれにみるスピードでの「超高齢社会」というのはこうしている間にも時々刻々進んでいるのであります。

で、私は政権いかんに関わらず、基本的にはわが高連協には追い風が吹いてきていると思っております。これは年来の皆さま方のご活動によるところでございまして、ご承知のとおり昨年、後れていた「高齢社会対策大綱」が閣議決定されまして、そのなかには私どもが当時の野田総理に提出いたしました高齢者の社会参加、高齢者の就労促進、あるいは高齢者の学習の促進、そのようなこともすべてこの「高齢社会対策大綱」の中には入っております、幸いに私どもの会とたいへん関係の深い清家篤先生が座長でもいらっしゃいましたし。

そこに示されておりますように、私どもの年来の主張である高齢者が当事者として社会に参画し、できるならば意欲と健康の許すかぎり社会に参画して、いままでの意味の雇用でないにしても、働いてお役にたって生きていくということについて一定の数値目標も示されている。これは画期的なことで、日本社会を「人生65年社会」から「人生90年社会」型へ転換ということがはっきりと謳われております。

私はもう10年近く、「人生100年、人生100年」といつてきて、90年ではまだ10年足りないのですけれども。これははっきりと平均寿命が7歳違う男と女の違いだと思っております。女性は平均寿命が86歳だから、人生90年といわれると「90年、あと4年か」と思う。ところが男性は平均寿命が短くて80歳未満ですから、「人生90年、おお良いな」と思う。ここらへんにも男女の感覚の差があると思えます。

ようやくわれわれの活動に政策が追いついてきた。考えようによっては高齢者に自立を強いる政策であり、ある意味では残酷な政策かもしれない。認知症は10人にひとりといわれますが、認知症になる可能性もあり、どんなに努力しても自立を失うこともある。堀田代表がずっとおっしゃっておりますけれど、認知症になっても尊厳をもって人間として生涯がまっとうできるケアがあり、地域があり、政策があることと表裏一体で

ありますが、私たちは力あるかぎりお役にたって社会に参加していきたい。

このことがきちんと政策に載ったという意味では、社会の多様な分野で活動してきてくださったわが高連協の皆さま方のグループ、個人の方々の活動の結果が実ったということでありまして、私たちはいま追い風に乗っているつもりで、みんなこれから1年がんばっていきたいと思います。

* 「高齢社会対策大綱」 2012・9・7 野田佳彦内閣(担当大臣中川正春)閣議決定

[対策大綱 20120907](#)

* 高連協「高齢社会対策大綱の見直し」に当たって提言 2012・1・12

[高連協提言 20120112](#)